

会報工房

第24号
2014年
11月11日

『会報工房』とは？
創像工房 in front of. は演劇、お笑い、映画などを創作する慶應義塾大学の公認団体です『会報工房』では創像工房 in front of. の活動報告と、公演では見ることのできない工房員の一面をお見せします。公演案内と共に楽しくみください。

編集部員
★榊原綾乃
葛里華
増岡侑祐
木下果力
及部力
武井寛樹
永岩郁人

1年生、三田祭公演に向け奮闘中！

今年も秋の本公演が終わり、三田祭公演の季節がやって参りました。本番は2週間後に迫り、着々と準備が進んでいます。

「企画責任の二人」

1年生だけで全てが進められる創像工房の三田祭公演。その企画責任も勿論1年生だ。今年も例年に倣って、新人公演役者・スタッフから1名ずつ企画責任に抜擢された。



役者からは本間志野が着任した。彼女は頼まれなリーダーシップとユーモア、そして演劇に対する熱い想いのものと、同期たちの信頼を一身に背負っている。彼女が最初のチーフ会議で強調していたのが、「同期が本気でぶつかりあえる企画にしたい。」という一言。企画が進むにつれて揺れ動くチーフたちの心を支えているのは、この言葉といっても過言ではない。一方スタッフから着任したのが、小沼喜紀だ。この男は恐らく1年の中で最も「しつかり」している。制作チーフも兼ね企画の達成のためなら厳しい態度もとるといふ彼のスタイルは、時に周りからの反発を買うこともある。しかし、それによって企画のバランスが保たれているのは同期皆が認めている事実である。そんな企画責任二人の共通点は、「仲間を思う気持ち」の強さである。同期の誰とでも気さくに話すことができる彼らは、常にサークル内の人気者であるが、企画をよりよくすることに励むあまり、互いにつつかり合うことも多い。しかし、それは彼らのなかもそもその二人の連携が三田祭公演成功のカギとなるであろう。三田祭以降も創像工房の中心を担うであろう彼らに今後も注目したい。

「今年も兼セク祭」
今年も三田祭公演参加者数は37人。例年に比べ、とても少ない。稽古場に加え、スタッフ6セクションを1年生だけで分担するには、セクションを兼ねること「兼セク」が当たり前の状態になっている。スタッフサブの兼セクはもちろんのこと、各セクションのチーフや演出助手、役者までが複数のセクションを担当している。そんな状況に「ものづくり」の観点から賛否両論の意見があるが、今年も三田祭公演は少ない人数で皆が協力し合っているということに確かである。

「チーフたちの苦悩」
三田祭のチーフは本当に辛い。当初、そんな言葉が先輩たちから一年生たちに寄せられていた。そしてその言葉は、企画が進むにつれて、初めて「チーフ」というものを経験している一年生の口からも漏れてきた。先に述べたように今年も兼セクしている人が多いが、チーフたちにかかる負担は大きい。そんな彼らを支えているのが、自分たちが参加した過去公演における経験である。それらの経

験はチーフたちの自信となつているとともに、スタッフワークにおける指針ともなっている。会議では、「あの公演ではこうやっていった」なんて言葉がよく使われ、突破口になっている。苦悩の下で完成される三田祭公演のスタッフワークに注目したい。

「初の稽古場に挑戦する男たち」

近年の三田祭公演で名物となつているのが、新人公演でスタッフをやっていた、役者未経験者の一年生たちが役者や演出をやる姿だ。今年度三田祭公演では、『ピフォア・ミッドナイト』脚本・演出の白石浩喜、同作、神役の及部力がそれに該当する。

初めて役者に挑む及部力は役者を志望した理由について、「一度役者をやすることで舞台に立つ側の都合を知ることができればいいな」と思った。何よりも色々な演劇をみて自分も彼らのような表現者になりたいと感じたからだ。」と述べている。もちろん、その一方で実際に稽古場に入って抱えている苦難もあるようだ。彼は、「苦難していることはやはり表現の仕方。脚本家の伝えたいことやワンシーン毎の感情や思いを伝えることが難しい。」と述べた。

白石浩喜も、「もともと物語を考えるのが好きで、もし自分の作ったものが舞台に乗って、たくさんの人に見てもらえたら素敵だなと思つたから。」と述べるるとともに、「芝居である以上、キャラクターを演じる役者がいる。その人たちにも自分のイメージをしっかりと共有してもらい必要があるのだけれど、自分の中に曖昧なものがあるとそれができない。そこが、ただ文章を書くのとは違って、大変なところ。」と述べている。いずれにせよ、初めての「稽古」を全力で取り組んでいる彼らと『ピフォア・ミッドナイト』に注目である。(永岩郁人)

★今後の公演★

★三田祭公演

(①日時、場所 ②あらすじ ③意気込み)

①十一月二十一日〜二十四日 慶應義塾大学三田キャンパス103教室 『正直でよろしい。』『ピフォア・ミッドナイト』

②男女二組が作り出すラブコメディ。今日こそ、ずっと秘めていたあの人への思いを…！／あらずじ突然、今日、という日に閉じ込められた兄弟が、奪われた、明日、を取り戻すべく立ち向かう。

③誠心誠意がんばります！(脚本家 小林史明)／脚本書くのも演出つけるのも…、というより稽古場自体初めてで、わからないことだらけですが、やるからにはいい舞台作って、たくさんの人に観てもらいたいです。頑張ります！(脚本家 白石浩喜)

★十二月公演 『マドンナ万歳！』 作・演 小野翼

①十二月四日〜九日 塾生会館アトリエ合

②「中学卒業以来カー」／同窓会に集まった3人の前に現れた当時のじられ役のノブナガ。／彼らに告げた一言／「娘と、結婚してください。」／不思議な雰囲気ノブナガ親子の仕掛ける急転直下の同窓会。時は15年前の運動会と文化祭に遡り、明らかになる新事実。どうやらこれは、一筋縄ではないらしい——

★十二月公演 『勝てば官軍』 作・演 金佳奈美

①十二月十九日〜二十一日 塾生会館アトリエ合

②ある日、JKが学校内に、新政府樹立のため革命を宣言した。世界を変えられると思っていたし、思っていなかった。大人になるための短い闘争の話。

③インドにいけば、なにか変わるみたいな感覚ってなんだろうって思つて書きました。インドって何なんでしょう。初本企画ですが、創像工房の今の勢いの波に乗ればと思つています。(脚本家 金佳奈美)



終了企画報告

無事幕を下ろした企画をご報告いたします。ご来場、ご支援誠にありがとうございました。

★夏WS公演 2014 「輝け、夏の大三角形に」

企画責任 小島佑太

恒例行事夏WSの、皆様のご声援ありまして8月末日に無事終了いたしました。誠にありがとうございました。そんな今後を担う一年生も、三田祭公演を十一月末日に控えております。楽しみですね。

★十月WS公演 「ドライブイン・カリフォルニア」

企画責任 飯塚政博

お疲れ様です。イイヅカです。役者WS観てくださった方ありがとうございました。そして今後脚演やる方々、ぜひとも彼らを役者で使ってあげてください！

★十月本公演 「クサビノシロ」

脚本・演出 熊倉飛鳥

『クサビノシロ』終演致しました。ここでの一言は、工房員関係者以外には伝わりませんが、ご来場ありがとうございました。450名にご観劇いただきました。ロングラン走りきれました。

★十一月公演 「賑々」

脚本・演出 小屋迫優士

賑々終演しました。観に来てくださった方々ありがとうございました。皆々様の心を賑々とできたならこれに勝る喜びはありません。次回公演をどうぞお楽しみに。



(右上…夏ws 右下…ドライブイン・カリフォルニア
左上…クサビノシロ 左下…賑々)

かけっこ角砂糖の最優秀賞!

創像工房4年の牧凌平が主宰を務めるかけっこ角砂糖の、今夏行われたシアターグリーン学生芸術祭 vol.8で最優秀賞を受賞しました。作品は、「ガチ秘密基地リスト〜デルタウロスの野望〜」で、キャスト、スタッフもほぼ工房員です。9月の後夜祭では、審査結果発表と授賞式が行われました。



(授賞式の様子)

主宰の牧さんにお話を伺いました。「シアターグリーンで公演を打つというのは僕にとって一つの目標でもありました。そこで賞まで頂けて、本当に嬉しいです。観にきて下さった方々始め、多くの方の応援を頂き、支えてもらいました。ありがとうございました。」

今回の最優秀賞受賞は、創像工房の後輩や、慶應の演劇団体にも大きな刺激となったでしょう。かけっこ角砂糖の、本当におめでとうございます！

創像工房から

LINEスタンプ登場★

十月本公演「クサビノシロ」で、オリジナルLINEスタンプを作成しました。そして、来場して下さったお客様に、記念として無料でプレゼントしました。キャラクターの名前はアクマトロス。黄緑色のクマのようですが、実は悪魔なのだそう。スタンプの種類は四十種類で、工房員も多く利用しています。かわいい、使いやすいなどと評判が良いです。イラストを描いたのは、3年生の増岡侑祐。なんと留学先のカリフォルニアから描いてくれたそうです。

左記QRコードを読み取っていただくとダウンロード可能です。この機会にぜひご利用ください！



<https://store.line.me/stickershop/product/1043768/ja>

